

2014-18-1

兎の肝臓

鶏病理 石原未希

提出機関: Animal Health Laboratory,
University of Guelph (Canada)

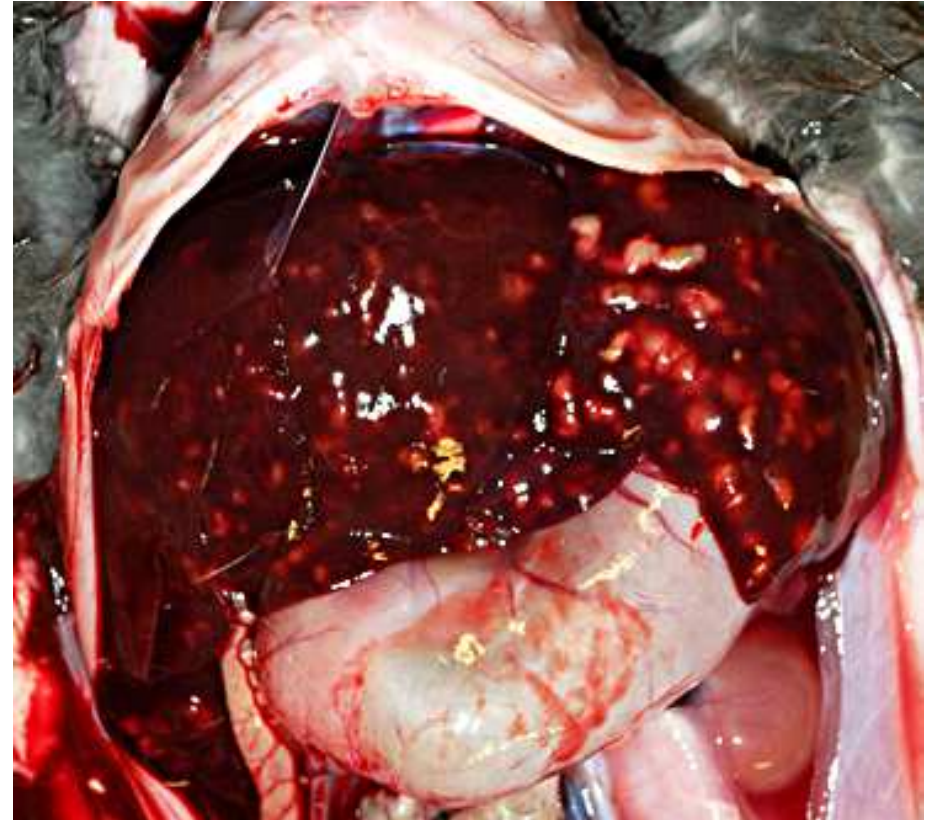
患畜: アナウサギ、肉用、9週齢、雌雄



病歴: 9週齢の群のうちケージ不足のため、数羽を物置の床で飼養
敷料(おがくず)は床の石灰消毒後、毎週交換していた
→床で飼養していた個体のみ死亡
死亡個体は出血性下痢でアンプロリウムで2週間治療していたが
鼓脹を呈し、さらに2週間の治療を実施
→最終治療の2日後、3羽の病性鑑定を実施

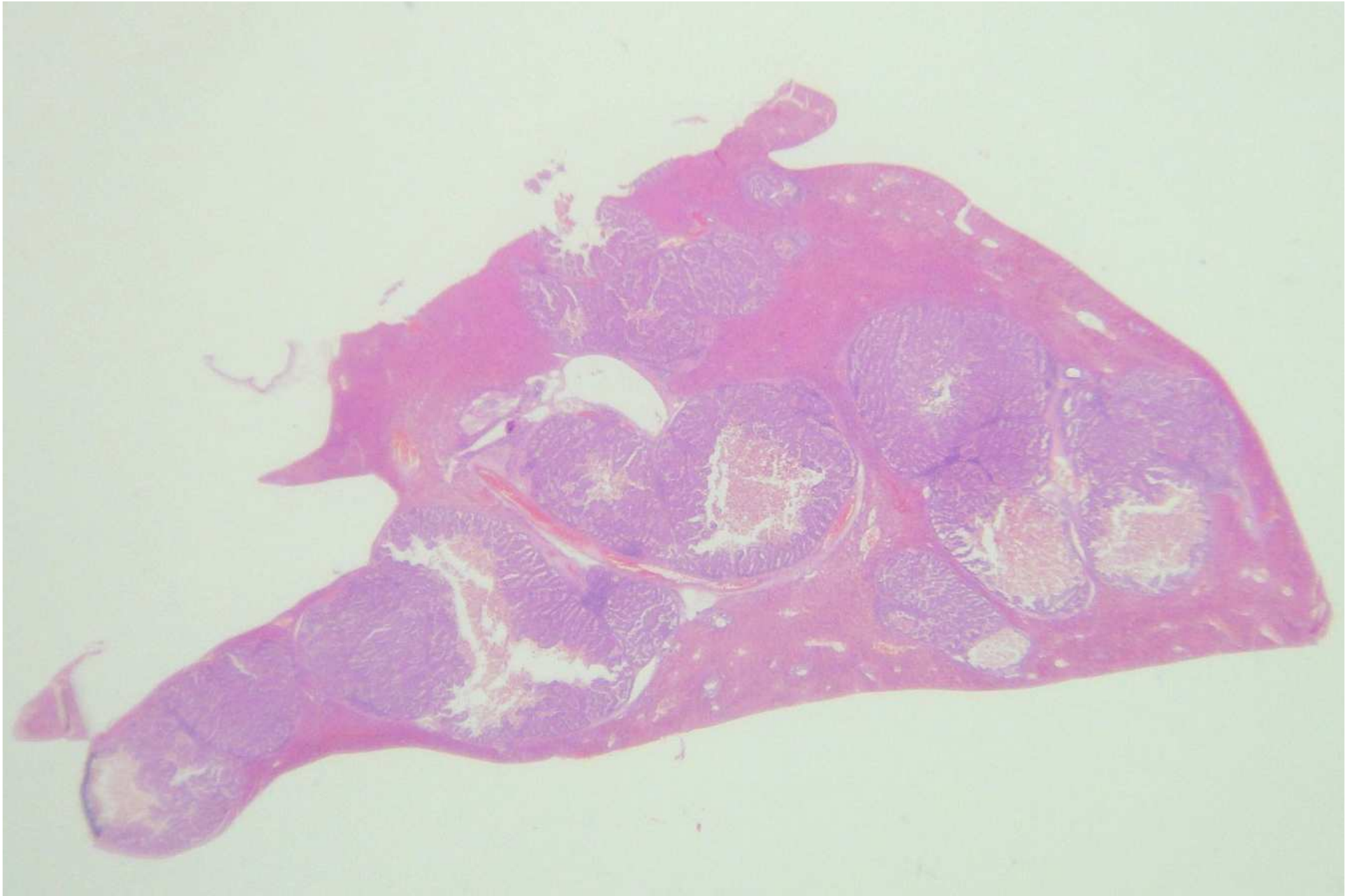
肉眼所見

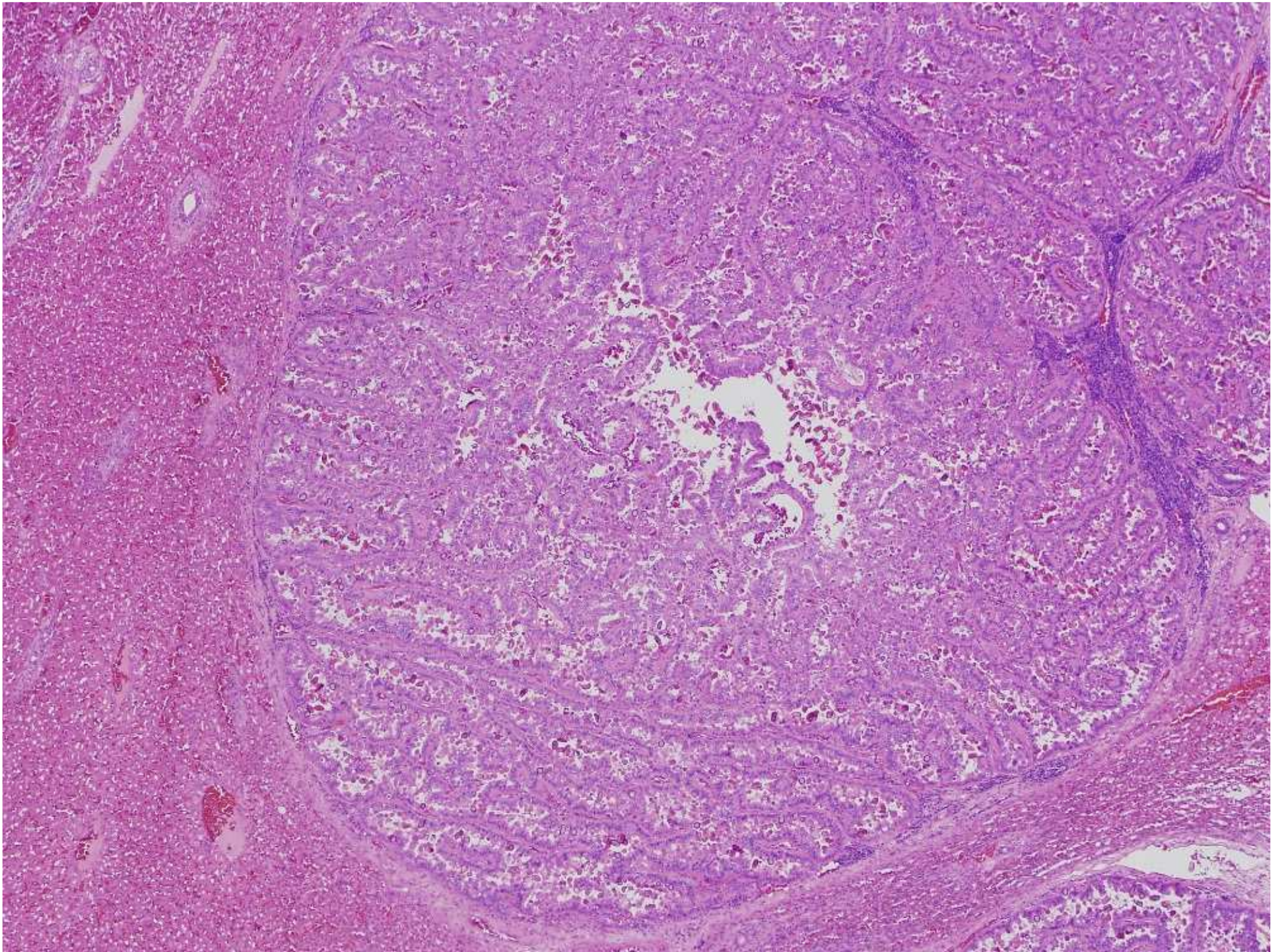
- ・筋肉量、外部および内部脂肪の減少
- ・腹腔の透明腹水の増加
- ・胃、腸内容物は正常
- ・肝臓は暗赤色で不規則に隆起した被膜表面を伴い腫大
- ・肝実質には様々な大きさを薄い嚢胞性の不透明淡緑黄色の液体を容れた円形～細長い紐状結節が多数散在
- ・胆嚢は肥厚し混濁した液体を含む

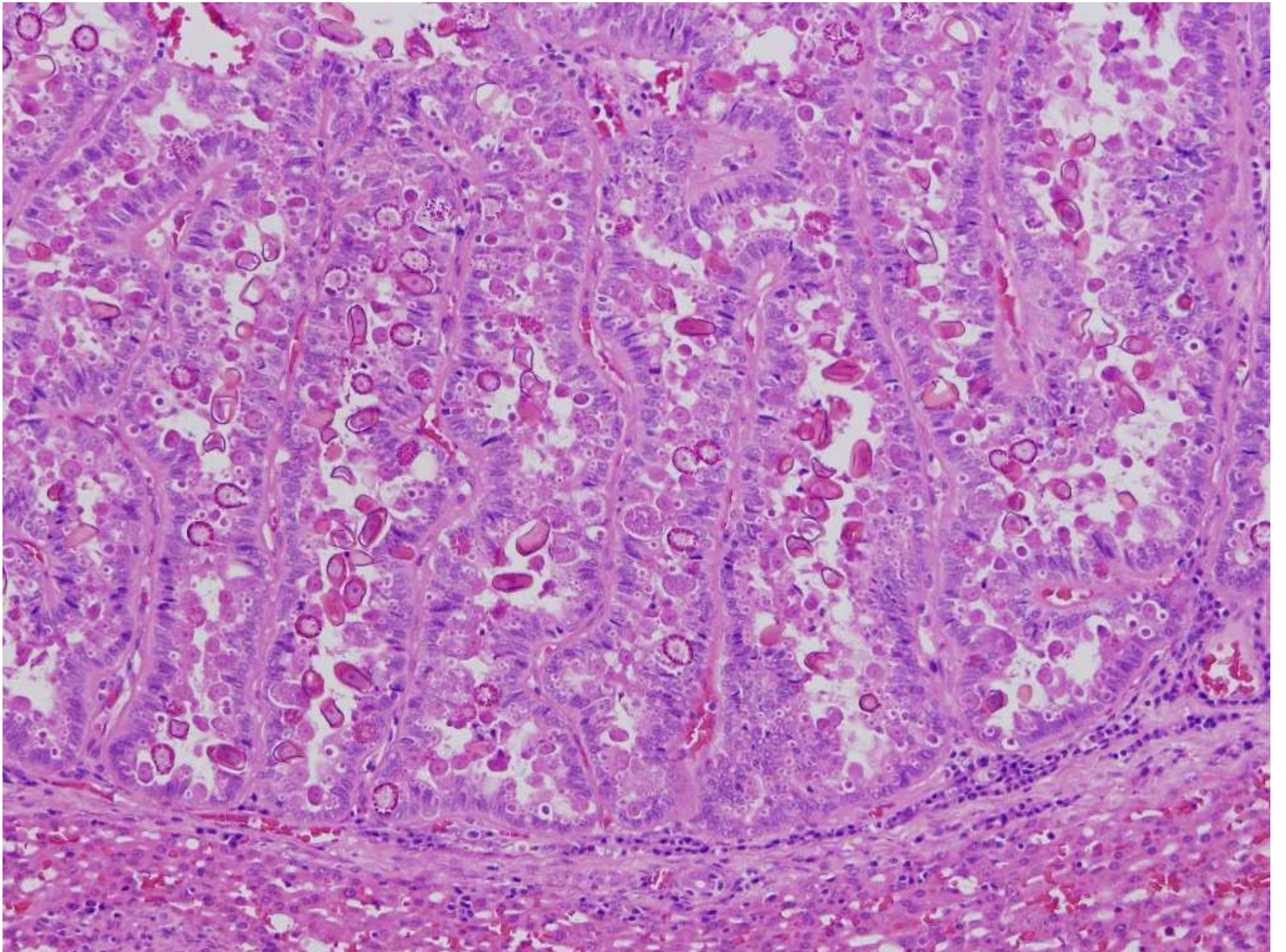


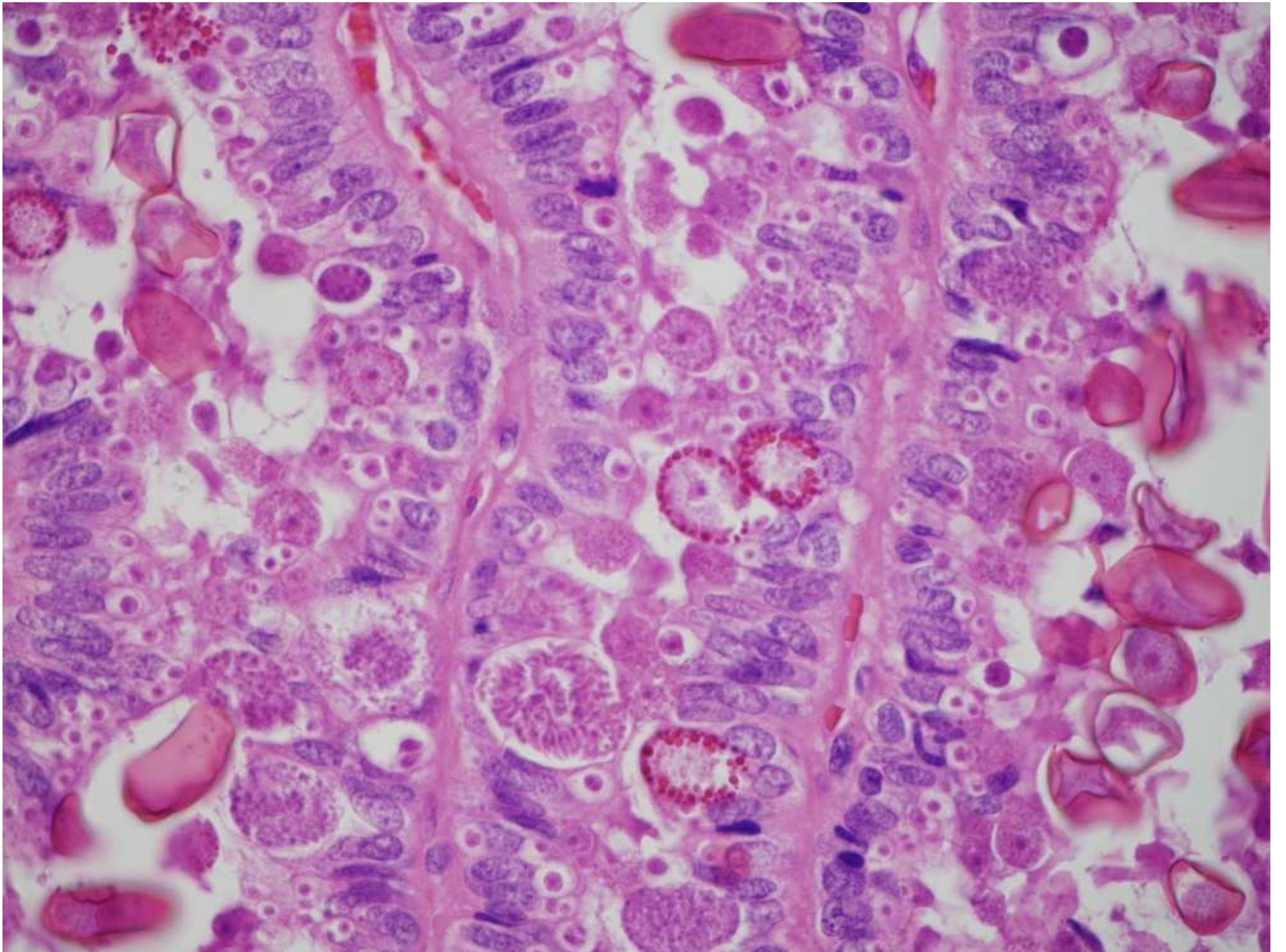
検査結果

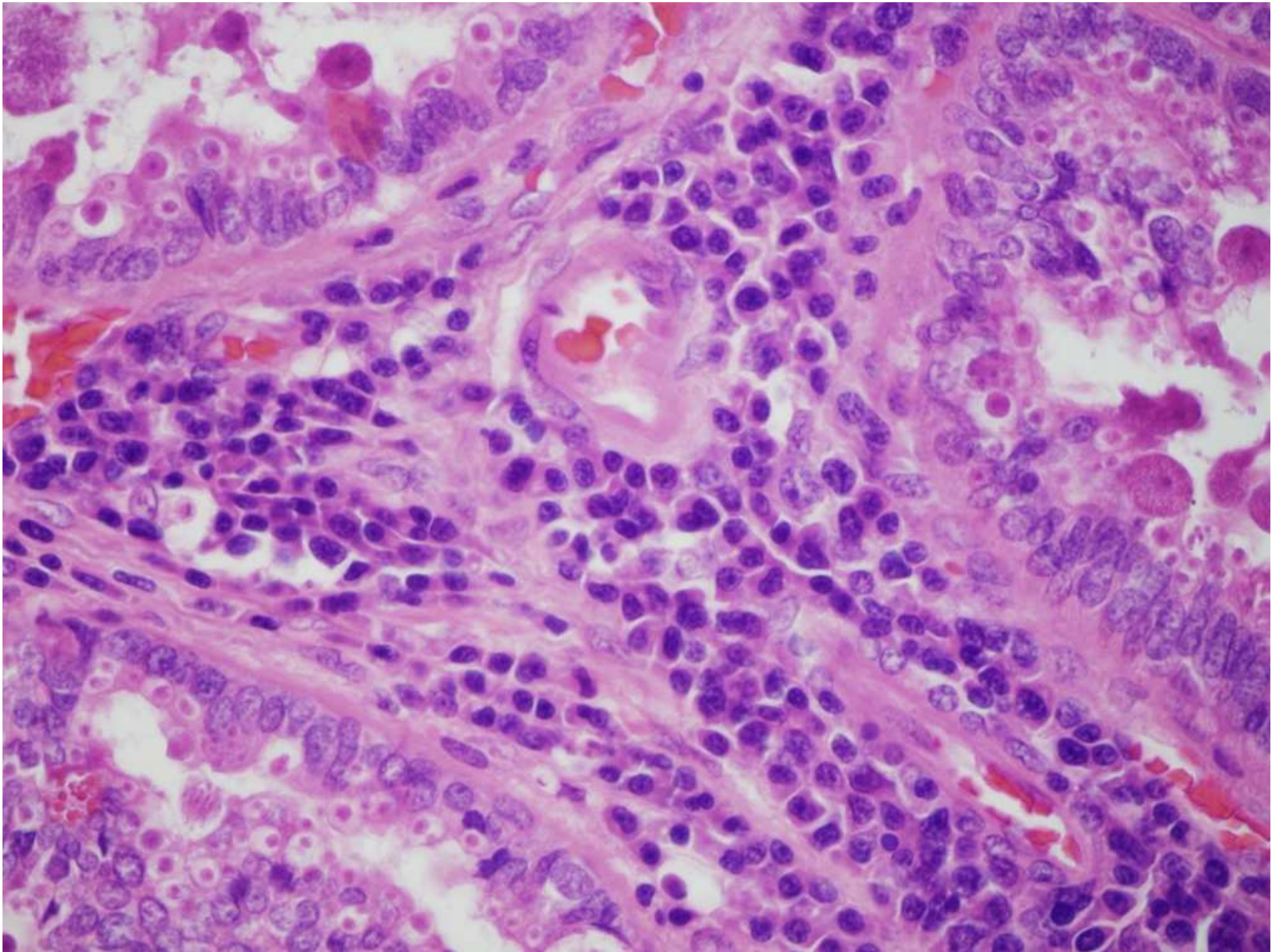
肝臓の嚢胞形成部から得た胆汁より *Eimeria stiedae* と一致したオーシスト、糞便検査で大量の混合した *Eimeria* spp. のオーシストを確認

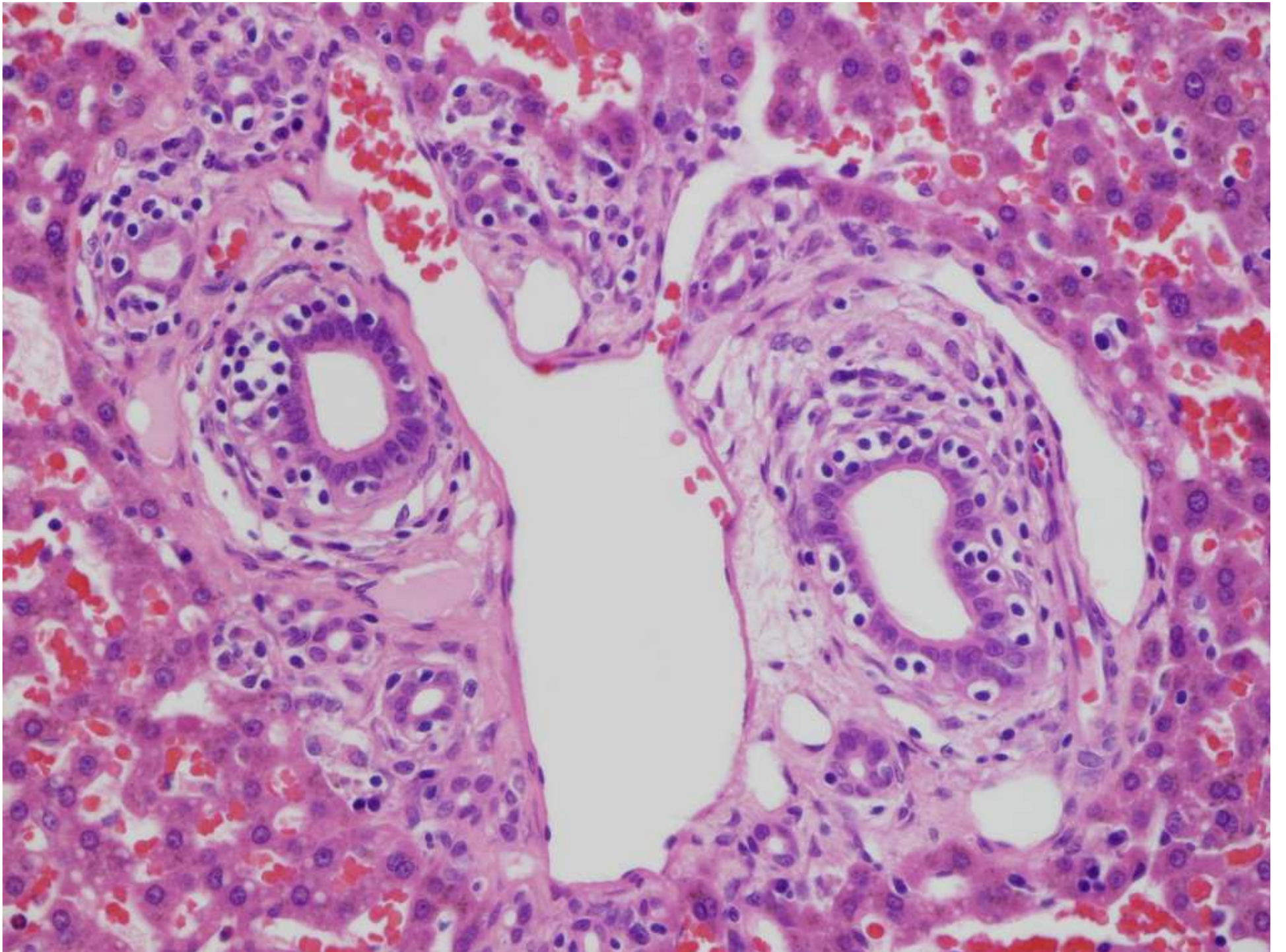












提出者の診断

1.病巣内の多数のコクシジウムを伴った顕著な増殖性および非化膿性胆管炎 2.顕著な肝萎縮 3.腹水症

1. Marked proliferative and nonsuppurative cholangitis with large numbers of intralesional coccidial organisms. 2. Marked hepatic atrophy. 3. Ascites.

JPCの診断

肝臓: 上皮内にコクシジウムを伴った、重度、慢性、多発性から融合性の増殖性胆管炎

Liver: Cholangitis, proliferative, multifocal to coalescing, chronic, severe, with intra-epithelial coccidia.

提出者のコメント

- ・オンタリオ州の商業用兎で発生する腸炎のうち、腸管コクシジウム症は重要な原因の1つであるが、商業用兎の肝コクシジウム症はほとんどない
- ・*E.stiedae* 感染による肝コクシジウム症は一般的に無症状
→肉用兎の肝臓の廃棄処分疾患であるが、成長期の死亡率は低い
- ・幼齢兎が高用量のスポロゾイト形成オーシストに暴露されると、食欲不振、体重減少、腹部膨満、下痢や高い死亡率を引き起こすかもしれない
- ・近年、肉用や愛玩用に小規模な室内飼育、床飼育が増加
→兎の肝コクシジウム症の診断に関する病理検査依頼が増加している
→今後、肝コクシジウム症が再び臨床疾患として問題となる可能性

- ・本症例：床で飼育されている兎のみが発症
→著しい数のコクシジウムを腸粘膜に認め、
糞便検査で*Eimeria* spp.オーシスト検出
→継続的に腸管および肝コクシジウムに暴露されていた可能性

兎：食糞行動を行う動物
→床飼育で食糞のリスク増加

- ・コクシジウム症：衛生対策が非常に重要
→コクシジウムを殺滅する一般的な消毒剤はない
→ケージや給餌皿・給水器からの有機物除去は
感染予防に有効



- ・過度な高用量のコクシジウムに暴露されない限りまたは正常な免疫応答性を持っている限り、兎は*E.stiedae* に対し長期的な免疫を発現可能
- ・*Eimeria*属には1000以上の種があり、大多数は消化管上皮細胞に寄生
- ・肝コクシジウム症は一般的に兎で認められるが、フェレットや鳥類でも報告

E.stiedae について

- ・兔のコクシジウムの代表種、胆管上皮に寄生
- ・スポロゾイトは感染後、リンパ行性または血行性のルートをとどり、12時間以内に腸間膜リンパ節、24時間以内に骨髄、48時間以内に肝臓で認められる
- ・胆管上皮のガメトゴニーにより、オーシストは胆汁内に排出、腸管を通過
- ・他のアイメリア属種と混合感染することが多い

《兔に認められるコクシジウム》

種類	<i>E.stiedae</i>	<i>E.flavescens</i>	<i>E.magna</i>	<i>E.media</i>	<i>E.irresidua</i>	<i>E.piriformis</i>	<i>E.perforans</i>	<i>E.neoleporis</i>	<i>E.intestinalis</i>	
オーシスト	大きさ (μm)	28-40 × 16-25	25-37 × 14~24	31-40 × 22-26	27-36 × 15-22	31-43 × 22-27	26-32 × 17-21	16-30 × 11-18	36-44 × 22-27	23-30 × 15-20
	形	卵~長円	卵円形	大卵円形	卵円形	卵円形	洋梨形	長円形	長円形	洋梨卵円形
	色	やや黄褐色	黄色	黄褐色	やや黄桃色	やや黄褐色	明黄褐色	無色	黄褐色	黄褐色
	マイクロ パイル	+	+	+	+	+	+	?	+	+
	外残体	-	-	12 μm	5.2 μm	-	-	3.2 μm	+	3-5 μm
プレパテント ピリオド	16-17日	8-11日	6-7日	6-7日	7-8日	9-10日	5日	11-14日 (12日)	10日	
主な寄生部位	胆管上皮	小腸下部、盲腸、結腸	空腸~回腸 まれに盲腸	空・回腸~ 大腸 とくに盲腸	小腸全域	空腸~回腸	十二指腸~ 回腸	回腸~盲腸	小腸下部	
病原性	+++	+++	++	++	++	+	+	+	+	